

学力向上の取り組みNEWS

～共に学ぼう、共に高め合おう～

アドミッションポリシー

アドミッションポリシーとは、入学者の受け入れ方針・入学者に求める能力のことです。大阪府立高等学校では全ての学校がアドミッションポリシーを掲げ、公開しています。

受験する際は、このアドミッションポリシーに照らし合わせて、受験生が「自己申告書」を大阪府立高等学校へ提出します。自由記述の自己アピールのようなもので、作成に悪戦苦闘する生徒もたくさんいます。

一度、各高等学校のアドミッションポリシーを確認し、どのような力を求められているのか確認してください。そして、その力を中学のうちにつけられるよう、逆算した計画を立てると、「自己申告書」はスラスラとかけるようになるはずです。

NEWSバックナンバー

本NEWSは一中の学びの様子をご家庭へと発信することを目的とし、昨年度より発行がはじまりました。iPadの導入や新しい授業スタイルなど、教育環境はめまぐるしく変化し、私達が受けてきた教育とは異なることが多くなってきました。少しでも、今の教育について本NEWSでお伝えできたらと思いますので、ご興味があればバックナンバーもご一読願います。



バックナンバー
はこちらから



唐突ですが・・・

首都圏では、1960年代後半から1970年にかけて合計特殊出生率が全国的にも高かったのに対し、1970年代以降、他の地方と比べて大幅に低下し、現在でも低い水準にとどまっている。こうした変化の理由として考えられることを述べなさい。

この問題は、令和3年度東京大学・地理入試の問題です。東京大学の入試問題は、ほとんどが記述式で、思考力を求められるものばかりです。一中の皆さん全員が東京大学を受験するわけではありませんが「大学入試の変化＝求められる人材」という観点から「なぜこのような問題を出題するのか？」について掘り下げていきましょう。

東京大学上田正仁（うへだ・まさひと）教授が「受験生応援2018」というサイトで答えた内容です。

人材を選別するために試すべきは、知識ではなくて考える力。必要な知識は、基本的に教科書に書いてあることが全て。でも、それを処理するには非常に高度な思考力・判断力が必要とされる—そんな問題が理想です。われわれは考える力を持った学生が欲しい。そのために莫大な時間をかけて問題を作っています。でも、新傾向の問題を作っても、塾関係者などプロの人が分析してマニュアル化する。生徒さんはノウハウをお金で買う。ただ、それは生徒さんのためにならない。本当は自分で考えないと。

時間はかかるけど、その分析を自分でやった受験生はプラスアルファの判断力・思考力が付くから強い。分析を自分の頭でやった方が、別の人にやってもらってただ与えられた練習問題を解くよりもはるかに考える力は鍛えられる。良い教材はたくさんあるから受験生も利用してもいいけど、教材の意味を理解した上で使っているか、と自問することも大切です。

先日放送された東大入学を題材にしたドラマ「ドラゴン桜2」第3話でも、こんなフレーズが出てきました。「教え合うメリットは知識が整理され、曖昧な部分が明確になり、理解度は格段に上がる」「『なぜ?』を考え、本質を見抜き、自分なりの答えを出す力をつける!」「お互いが教え合ったり、常に伝えることを大事に」「多角的な視点であらゆる立場の人間の気持ちを想像する人間（人材）を求めている」まさに新学習指導要領が求めているものが凝縮されていました。あくまでドラマの話ですが、これからの時代に求められる「人材」を表したものだっただけではないでしょうか。

実際、東京大学のアドミッションポリシー（求める人物像）には

入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

と記されています。知識だけでなく、本質を見抜き、他者と協力して未知の課題を解決していけるような人材が、東大に限らず、今後必要とされていくのでしょうか。一中の授業もそんな力がつけられるように、段々と変化してきています。

